



高梁市医療計画を策定しました！

「地域医療は、まちづくり」を基本理念とし、4つの基本方針を定めました。皆さんの疑問にお答えします。

基本方針1 住民の医療需要が変化しても、適切な医療が受けられること

Q1. 高梁市内ですべての病気が診られないの？

高度な医療を要する病気など全ての病気が診られるわけではありません。しかし、高梁市内で対応が可能な病気も市外の病院へ行っている人もいて、市内の病院でこういった病気が対応可能なのかしっかり市民の皆さんにお知らせすると同時に、市内にある病院の連携を強めて、医療の提供体制を充実していきます。

外来で市外の病院に行っている方の割合：25%
入院で市外の病院に行っている方の割合：35%

基本方針2 医療従事者が誇りを持って働ける、持続可能な地域医療

Q2. このままいくとどうなるの？

患者さんの数は少なくなりますが、医者数がそれ以上に少なくなるので、今以上に病院にかかりにくくなります。

	2015年	2040年
1日当たりの外来患者数	1,327人	915人 (31%減)
1日当たりの入院患者数	665人	501人 (25%減)
医師の数	56.7人	24.4人 (57%減)

Q3. お医者さんや看護師さん等の人材確保はどうするの？

市内教育機関卒業生の定着率が低い事もあり、すでに医療スタッフが不足している状態であり、危機感を感じています。これからは、地域の病院や診療所が協力して高梁全体の採用計画を立てて、県などの関係機関への働きかけをしていく計画です。また、市内で働くことの魅力も発信していきます。

Q4. 病院スタッフにやさしく対応してもらいたい...

病院スタッフの接遇に対して多くのご意見をいただいております。改善が必要です。一方で、スタッフの多くは日頃の業務が多忙で疲弊している実態もあります。市内の病院や教育機関が連携して、働き方改革と教育・研修内容の見直しをセットで進めます。

基本方針4 地域での自立した生活に寄り添う基盤の整備

Q7. 最期まで住み慣れた自宅で生活がしたい...

高齢者の約4割が最期を自宅で迎えたいと思われています。希望する方が在宅で療養生活を送れるよう、その利用方法の周知や多職種連携によるサポート体制を整備します。

基本方針3 子どもを産み育てやすいまちを目指した出産・子育てサポート体制の整備

Q5. 子どもが夜に具合が悪くなった時、市内の受入れ態勢は？

子どもの救急については、36%の方が市外の病院へ行かれています。小児科の診療時間の調整を検討するなど、市内での小児医療体制を整備します。

Q6. 市内に分娩施設がないけど今後はどうなるの？

医療機関の採算性の問題や産科医の人材確保等の面から分娩施設の設立が難しい状況です。全国的にも都市部に分娩センターとして集約しようとする流れです。

市内産科クリニックとも連携し、出産・子育てサポートの充実を図ります。